

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採 沃		
授 業 科 目	アート演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年 次 ・ 前 期
授業の主題 目 標	<p>身体を造形要素としてのアート制作。          身体をめぐる諸造形的言説についての理解を深める。          様々な身体の機能や、感覚的要素についての思考力・感性を高める。          アートの制作及びそれぞれの制作技法の発掘・発展させる。          身体を媒体にしたプレゼンテーション力・記録と編集および技術力の向上。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 20 世紀以降、現代美術における身体とアートについて</li> <li>3. 身体を媒体にしたアートについて (パフォーマンス、イベント、ハプニングなど)</li> <li>4. 作品の発想：ディスカッション</li> <li>5. 作品の企画：スケッチ画・制作案作成</li> <li>6. 作品の制作①素材あつめ</li> <li>7. 作品の制作②表現力と技術の発掘</li> <li>8. 作品の制作③試し制作</li> <li>9. 作品の制作③本制作</li> <li>10. 作品のプレゼンテーション (実演)</li> <li>11. 作品のプレゼンテーション (記録)</li> <li>12. 作品のプレゼンテーション (1 回目編集)</li> <li>13. 作品のプレゼンテーション (2 回目編集)</li> <li>14. 作品の発表</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>肉体のアナーキズム (黒ダライ兒, grambooks, 2012)          必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。</p>				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。				
評価の方法 基 準	<p>作品 (50%)          プレゼンテーション (40%)          授業態度 (10%)</p>				
履 修 上 の 注 意	クロッキー帳など、基本的な描画道具が必要なため、各自で準備し、毎回持参すること。				